

平成25年度豊かなむらづくり全国表彰事業受賞団体の概要

【農林水産大臣賞受賞団体】

○ 帆山地区 (香川県仲多度郡まんのう町)

代表者：岩倉 節夫 役職：自治会長

昭和54～59年のほ場整備後に、農家の所得向上を目指して地域農業集団を設立し、大豆を中心にブロックローテーションに取り組んだ。

平成4年からはひまわりの栽培を開始し、平成12年以降は5haとなってローテーションの中心作物となっている。油やドレッシングなど加工品の開発・販売や、有望品種への切替をするなど、付加価値を高める取組も続けている。

平成22年には農事組合法人を設立した。同法人は、オペレーターとして地元建設業者に農作業を委託し、加工品等の開発・販売を行うなど地区の農業の担い手となっている。

また、地元特別養護老人ホームと交流を続ける中で、平成18年に自治会とホームの間で防災協定を結ぶに至っている。

まとまって咲く25万本のひまわりは、香川の夏の風物詩として定着し、ひまわり祭りを開催するなど地域の魅力を発信している。

○ まつやま里島ツーリズム連絡協議会 (愛媛県松山市)

代表者：田中 政利 役職：会長

平成17年の市町村合併で一つの自治体になった忽那(くつな)諸島の活性化のための提言を、行政と市民が協働で取りまとめたことを契機に、島民が中心となった活動組織が平成18年に設立され、活性化のための活動を始めた。

島の地域資源(自然、文化、農水産物、食など)を活かしたツーリズムによる交流を重要な取組と位置づけて活動する中で、平成22年に体験メニューやイベントを内容とする島博覧会が忽那諸島で開催された。多くの人が訪れ島の魅力を感じる一方で、島民も交流活動の重要性と島の魅力を再認識することとなった。

平成23年にまつやま里島ツーリズム連絡協議会を設立し、内容を充実させた体験メニューやイベントを「里島(りとう)めぐり」と称して行っている。

島に魅せられたIターン者も現れ、連絡協議会のメンバーとなったり、NPO法人を設立して農業に取り組むなど、島づくりに参加している。